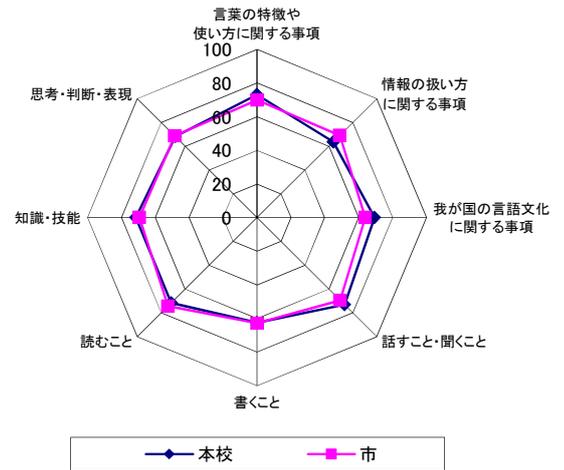


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	63.7	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	69.4	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	73.1	69.5	71.5
	書くこと	62.5	62.8	67.1
	読むこと	71.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	71.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

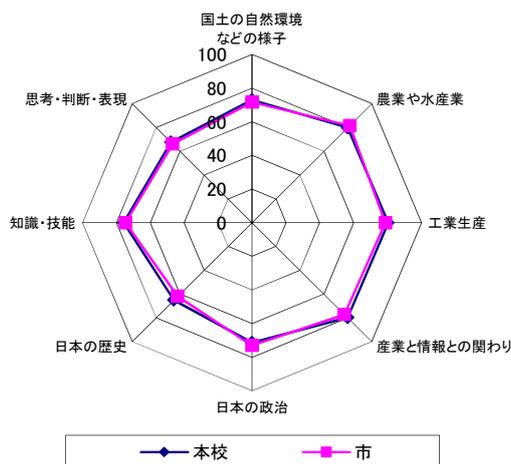
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○「漢字の読み書き」の設問については、ほぼ市の正答率を上回っており、日頃の反復練習、確認テストの実施の成果だと思われる。	・漢字の読み書きについては、今後も引き続きドリルやプリント、家庭学習等で定着を図る。 ・作文の学習では、段落や文字数を指定して文の構成を考える活動を授業の中で取り入れていく。限られた文章の中で、伝えたいことを明確に表現できているかについても振り返る活動を取り入れ、意識させていきたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●「説明文の内容を読み取る」設問については、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することはできるが、目的に応じて簡単に書く問題では正答率が低い。	・複数の情報を比較したり、関連付けて考えたりする学習を多く取り入れる。 ・情報をそのまま書き写すのではなく、要旨を落とさずに、目的に合わせて簡潔にまとめて書く活動を取り入れ、手本を示すことにより表現の仕方の習熟を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○「言葉の学習」の設問については、漢字には意味を表す部分と音を表す部分からできていることは理解できている。	・漢字練習の際には、書くだけでなく、漢字の由来や成り立ちについても触れ、漢字そのものも意味を理解させるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○「インタビューの内容を聞き取る」設問については、計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉える設問では、市の正答率を上回っている。	・国語の授業に限らず、話し合いの場を多く設定するようにし、話の内容を明確にするためにどのようなことに気を付ければよいのか、意識しながら話し合いをさせる。 ・相手の意見と自分の意見を比較しながら聞いたり、互いの立場を明確にした話し合いを進めたりするなど、話し方・聞き方の基本を意識するよう支援していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ●「指定された長さで文章を書く」設問では、市の平均正答率をわずかに上回っているが、自分の意見とその理由を明確にして書くことにおいて課題が見られる。	・自分の考えや意見を書く学習では、段落や文字数を指定して文の構成を考える活動を取り入れるようにする。決められた条件の中で、自分の考えやその根拠を明確に表現する活動を繰り返し取り入れていく。 ・国語の授業だけでなく、他教科においても自分の考えを表現する機会を意図的に設定するようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる」設問では、市の平均正答率を下回った。	・読書活動を多く取り入れ、幅広い内容の本に触れる機会を増やしていく。 ・読んで面白いと感じた本を友達に紹介する機会をつくる。 ・文章の内容を読み取り、要旨をまとめる学習に繰り返し取り組ませる。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.1	71.6	67.5
	農業や水産業	79.8	81.5	82.1
	工業生産	80.4	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	79.8	77.2	68.2
	日本の政治	71.4	73.1	77.9
	日本の歴史	65.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	75.7	74.6	74.5
	思考・判断・表現	67.7	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

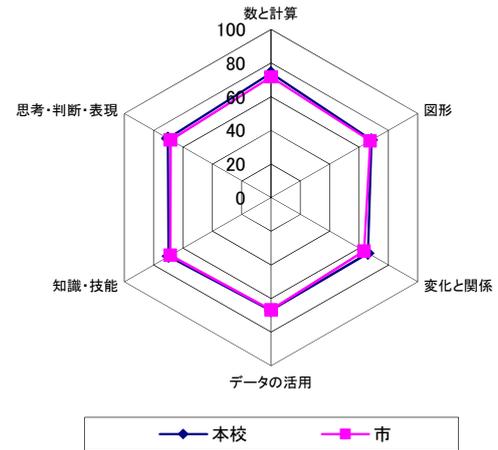
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○世界の中の国土の内容において、日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る設問は、市の正答率を12ポイント上回っている。</p> <p>●韓国の国旗と位置に関する設問では、市の正答率を2.5ポイント下回っており、日本の周辺の海洋名に関する設問でも市の正答率より低い結果となっている。世界に目を向けた問題では課題が見られる。</p>	<p>・授業の導入や調べ学習の中で、地図帳を積極的に活用し、国の特徴や国土の様子について、その都度確認していく。また、グラフや表を基に考えさせる場を意識的に多く設定し、資料を活用する技能を高めていく。</p> <p>・海外の位置や国旗のみに留まらず、それぞれの国を身近に感じられるような情報を提示することで国名、国旗、情報等が一体となって理解できるようにしていきたい。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断する設問では、市の正答率を1.9ポイント上回っている。</p> <p>●カントリーエレベーターに関する設問は2.7ポイント、地産地消の取り組みに関する設問は4.2ポイント市の平均を下回っている。</p>	<p>・複数の資料を相互に関連させながら資料を読み取らせることで、農産物とそれに関する施設や取り組みの関係性を意識させながら理解を深められるようにしていきたい。</p> <p>・動画資料や身近に感じられる資料(地域での地産地消に関する取り組み等)を取り上げ、自分事としても感じられるようにさせたい。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○自動車工場の作業工程に関する設問については、94.4%の正答率である。すべての設問で市の正答率を下回ることではなく、資料の読み取りや記述式の問題においても良好な結果となっている。</p>	<p>・引き続き、予想を立てて学習に取り組んだり、考えたことを表現したりする活動を授業に取り入れ、理解力を高めていく。また、工業製品を身近に感じながら課題を追究できるよう、問いを工夫したり、工場見学等の体験的活動を取り入れたりする。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均を2.6ポイントとやや上回っている。</p> <p>○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する設問では、市の正答率を6.6ポイント上回っている。メディアの特徴に関する設問でも市の正答率とほぼ同じだが、90.3%と高い正答率である。</p>	<p>・身近な暮らしの中にある情報活用や情報ネットワークについて、コンビニエンスストアやスマートフォン、パソコン等で行われている実際の情報活用の様子などを提示することで、児童自身の生活と関連付けながら、具体的に理解させていく。そのために、引き続き出前授業等を活用し、ゲストティーチャーを招いて情報産業の更なる理解に努めていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する設問については市の正答率とほぼ同じで83.1%と理解している。</p> <p>●日本の政治に関して、図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する設問では、市の正答率を2.4ポイント下回り、47.6%の正答率で課題が見られる。</p>	<p>・自分たちの暮らしを、より安全に、快適にするために法やきまりはあり、わたしたちの生活と政治は深い関わりがあることを資料を用いて調べたり話し合ったりすることで理解を深められるようにしていきたい。</p> <p>・日本国憲法の内容や政治、裁判、税について、自分にとって身近な問題として捉えられるよう、国民一人一人の意識が重要だと理解できるよう、出前授業等を活用したり体験的活動を取り入れたりすることで、知識の習熟を図る。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○北条政子の訴えの理解をもとに、年表を読み取る設問では、市の正答率を5.7ポイント上回っている。また、15世紀から17世紀のできごとについて、適切な見出しを判断する設問では、8.4ポイント上回っている。</p> <p>●資料に着目して遣唐使が与えた影響を記述で答える問題では、36.3%と課題が見られる。</p>	<p>・人物の学習を中心に、業績や時代背景、思いや願い等を捉えさせ、歴史的事象の基本的な知識の定着を図っていく。また、各時代の特徴をまとめるとともに、時代ごとの制度や権力者、思想の変化等を比較検討し、話し合う活動を取り入れ、歴史的事象の意味について時代のつながりを意識しながら理解を深めていく。そして、まとめや振り返りを充実させ、自分の言葉で表現する機会を増やすことでより知識を深めさせたい。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.0	71.8	76.2
	図形	68.4	67.7	67.8
	変化と関係	66.1	63.4	62.7
	データの活用	67.1	66.7	61.5
観点別	知識・技能	69.8	68.6	70.7
	思考・判断・表現	70.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

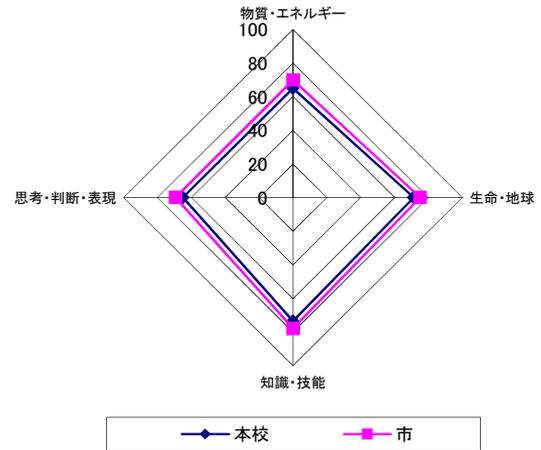
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「図を見て、小数倍の文章題を解くために乗法の立式をする」設問では、全国平均を大きく上回った。</p> <p>●「文字を使った式が表す場面を選んでいる」の設問では、全国平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習や自主学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上に向けた取組を行っていく。 学習全体を通して積極的に文字を用いて考えたり表現したりする活動を取り入れ、文字を用いた式に触れる機会を増やす。
図形	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める」直方体を組み合わせた形の体積を求める設問では、全国平均を大きく上回った。</p> <p>●「合同な三角形を作図する」設問では、全国平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書やタブレットなどを利用し、より理解しやすい授業を目指し、指導の充実を図る。 作図の学習については、一人一人丁寧に手順を抑えながら、確実な定着を図る。
変化と関係	<p>平均正答率は、5領域の中で最も高い。</p> <p>○「基準量と比較量から、割合を求める」設問では、全国平均を大きく上回った。</p> <p>○「図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるか考察する」「速さの単位の関係を整理し、時速を秒速や分速に直す」設問では、全国平均とほぼ同じである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高い正答率を示したがさらに向上できるよう、算数の補助プリントでは、今後も継続して計算だけでなく数学的な考え方のスキルアップを図る問題にも多く取り組ませ、思考力を高めていきたい。 速さの単位換算については、単位換算するよさを理解させるとともに、反復練習をさせることにより複雑な計算にも取り組めるようにする。
データの活用	<p>本校の平均正答率は、5領域の中で最も低い。市の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「値に0がある連続量の平均を求める」「ドットプロットから、中央値を読み取る」設問では、全国平均を大きく上回った。</p> <p>●「帯グラフを読み取って説明する」設問では、39.5%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> つまづきを解消するために、習熟度別学習を生かして個に応じた児童の充実を図る。 データの見方については、まなびリンクのツールを活用したり、補助プリントで反復練習をしたりしてデータの処理の仕方やデータの見方が理解できるよう指導の工夫を図る。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.0	69.9	67.8
	生命・地球	71.2	75.1	73.7
観点別	知識・技能	73.5	77.8	78.4
	思考・判断・表現	65.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。</p> <p>○リトマス紙のようすから、水溶液の液性を問う設問では、全国の平均を上回っている。</p> <p>●ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する設問では、全国の平均を大きく下回っている。</p> <p>●溶け残った食塩をすべて溶かす方法を問う設問では、全国を大きく下回っている。</p>	<p>・観察や実験を行う際は、理解しやすく、また、実感を伴って行えるように、実験方法や道具や装置を工夫する。また、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図っていく。</p> <p>・学習問題から実験方法を考え、ノート記述や話し合い活動を通して言語化する機会を積み重ねる事で、定着を図っていきたい。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○植物の発芽と成長について、予想が正しかった場合に得られる結果を予測する設問では、全国の平均を大きく上回っている。</p> <p>●くきを切ったときの断面の、水の通り道のようなすを問う設問では、全国の平均を下回っている。</p>	<p>・今後も視聴覚教材やICT機器等を活用しながら、できるだけ実感を伴った学習内容の理解を促していく。</p> <p>・生き物や植物に関する学習は、今後も実物を観察しながら学習を進め、正しい結果が明確に分かるよう入念に教材等を準備し、学習内容の定着を図っていく。</p>

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝一学習」の実施。 ・漢字計算オリンピックの実施。 ・AI型学習ドリルを活用した個に応じた指導の充実 ・専門性を生かした教科担任制 ・学習指導法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容定着度調査の4科目の基礎分野の正答率は、国語73.4%、社会75.5%、算数74.2%、理科70.3%で市の平均正答率と比べると国語・算数がそれぞれ2.9ポイント、1.0ポイント高く、社会・理科がそれぞれ0.2ポイント、3.8ポイント低かった。国語・算数の基礎的な学力はおおむね身に付いている。
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的対話的で深い学びの実現のための「めあてや見通し、見方・考え方、振り返り」などの授業改善の視点の共通理解と実践、計画的な校内研修の実施、振り返りの視点の共通化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は、2、4、5年生で市の平均より2～3ポイント高く、他の学年ではやや低かった。学年間により差があるが、8割以上の児童が学習に進んで取り組むことができている。
・ICTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用」の学校課題への設定 ・端末やアプリの使用法の研修 ・校内研修や一人一授業を活用したICTの効果的な活用法の研究実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」、「パソコンを使って相手に分かりやすく自分の考えを伝えることができる」の肯定割合はほとんどの学年で市の平均を上回っている。ICTの活用について取り組んできた成果が表れている。
・家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の「家庭学習の手引き」を活用した、発達段階に応じた適切な課題や量の調整と計画的な家庭学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は約9割と市の平均とほぼ同等である。 ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、6～7割であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎・基本となる学力はおおむね身に付いていると言える。平均正答率80%を目標に、基礎基本の定着に向けて朝一学習や漢字計算オリンピックの内容や活動を工夫して継続していくとともに、AIドリルを効果的に活用して個人の学力の底上げを図っていく。また、社会科や理科の基礎的な学力の定着にも力を入れていく。

・「主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用」については、今年度の成果を生かして、ICTを活用する場面を授業の中に適切に位置付け、効果的な活用の仕方についてさらに研究を続けていく必要がある。

・話し合い活動については、多くの児童が進んで話し合いに参加することができている。ICTの効果的な活用の研究との関連を図りながら学び合いにもICTを積極的に活用していく。

・家庭学習の習慣化については、ほとんどの児童は宿題を提出するなど家庭での学習習慣は身に付いている。高学年では、自分で計画を立てて学習する力を育むために自分で計画表を作るなどの取組をしていく。